

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年5月11日時点)

➤ **ウクライナ軍が南部及び東部の露軍への抵抗を継続するとともに反転攻勢に向けた準備を進める一方、露軍は東部における占領地拡大に向けた作戦や各地の非軍事施設に対する攻撃を継続している模様**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: **死者約6万~7万人** (CSIS2月27日)

: **死傷者約18万人** (クリストファーセン・ノルウェー軍参謀総長1月22日)

「ウ」軍: **死者最大約1万3千人** (ポドリャク「ウ」大統領府長官顧問22年12月1日)

: **死傷者推定10万人以上** (クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: **死者8490人以上、負傷者1万4,244人以上** (OHCHR4月10日)

- カービー米NSC戦略広報調整官は、パフムトを巡る戦いで**ロシア軍の死傷者が過去5か月間で10万人(死者2万人含む)**に上ると指摘(5月1日)

- ロシア側が任命した「**ザポリジヤ州知事代行**」は、「ウ」軍の砲撃が強まっているとして、前線に近い18の地区の**住民の一時避難を決定**。さらに「ウクライナ軍の反転攻勢が迫っている」と危機感を表明(5月5日)
- グロッシIAEA事務局長は、**ザポリジヤ原発施設周辺からの住民の避難が、原発近辺でのロシア軍・「ウ」軍間の激しい戦いが生起することを示唆**していると指摘(5月8日)

- ロシア国防省は、「ウ」軍の**無人機22機が黒海上空に飛来し**、ロシア軍が電子戦及び防空ミサイルシステムを用いて**全機を破壊**したと発表(5月7日)

- 無人機がモスクワのロシア大統領府に飛来(5月3日)

- 5月5日、デンマークのポールセン国防相代行は、ドイツと共同でウクライナに供与するレオパルト1戦車について、6月1日までに80両引き渡す旨発言
- 5月8日、ポーランド国防相は、MiG-29戦闘機10機を既にウクライナに引き渡し済である旨公表

- 「ウ」空軍司令官は、防空ミサイルシステム「**パトリオット**」を用いてロシア軍の極超音速ミサイル「**キンジャル**」を**迎撃**した旨発表(5月6日)
- キーウ市長は、ロシアから**60機近い無人機**が発射され、36機がキーウ上空に飛来、36機全機を撃墜したと発表。市長はこれまで最大規模の自爆型無人機攻撃であったと指摘(5月8日)
- 「ウ」軍は、ロシア軍がウクライナ全土に**25発の巡航ミサイル攻撃を実施**し、そのうち**23発を「ウ」軍が迎撃**したと発表(5月9日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- 👉 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- 👈 ウクライナ軍が奪還した地域



- 民間軍事会社**ワグナー**のプリゴジン氏は、弾薬不足を理由に10日に**パフムトから撤退する旨表明**(5月5日)
- 同氏は、露国防省との間で弾薬供給で合意したとして、**パフムトからの撤退を撤回**(5月7日)
- 同氏は、供給された**弾薬が要求量の10%にとどまっている**として、**だまされたと主張**(5月9日)